一般社団法人
aichikara

2019 年度

年次報告書

◆2019年度のaichikara

日頃より、当法人の活動にご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

この1年を振り返る最中、新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活は瞬く間に変化していきました。
未知の経験に加え、見えぬ恐怖から生まれる不安感は、まさに9年前の東日本大震災直後の我が国の混乱時を想起させます。
不確実な状況の中で「他者と協力し、いかに選択・判断するのか」という震災から学び得た事柄が、どれほど今日に生かされたのだろうかと、改めて顧みるきっかけになりました。

また、2019年度も我が国は数多くの災害に見舞われました。
当法人は、台風19号の災害に際して発災直後に現地視察を行いました。その後、至学館大学等と連携を図り、ボランティアバスを計４回、企画・運行し、多くの学生を被災地へと繋ぎました。
「被災地のために力になりたい」と強い思いを持った学生が集まり、中には初めてボランティア活動に参加した学生もいました。悲惨な状況を目の当たりにし、胸を痛めながらも取り組んだこの活動は、若者の心を大きく揺さぶったことでしょう。
いつの日か、この記憶が彼らの経験と共に呼び起こされる時、どんな困難とも向き合う力となることを切に願っております。

キャンプ事業では、3年振りに夏・冬とキャンプを開催することができました。特に、夏は期間中台風に見舞われ、メインとなる企画の変更を余儀なくされましたが、スタッフの総力を結集し、子ども達に一度きりの思い出を届けました。

当法人が取り組む事業には、「学び」と「成長」が欠かせません。世代を問わず様々な実践を通じて得られた「知」は、本人のみならず、他者や社会と共鳴し、相互の成長や変化に繋がっていくと考えています。これからスタートする1年もこのことを大切にし、社会の変動と共に着実に歩んでいく所存です。

今後も、当法人へ変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

一般社団法人 aichikara

代表理事　石原 杏莉

キッズチャレンジサポート

子どもの可能性を引き出し
たくましく生きていく
チカラを育みます

ユースチャレンジサポート

青少年の挑戦をサポートし
社会のリーダーとなり得る
チカラを育成します

aichikara 4つの事業

人と地域を守る活動

地域で活躍する個人や団体
との協働を通じて地域社会に
貢献します

教育機関との連携

教育機関と連携し
主体性や社会性に
重点を置いたプログラムを
提供します

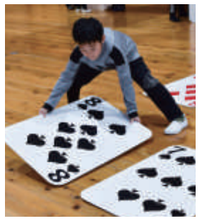
INDEX

p1　2019年度のaichikara
p3　特集1　子どもリフレッシュキャンプ2019
p5　特集2　スタディーツアーin宮城
p7　特集3　令和元年台風19号被災地支援
p9　ユースチャレンジサポート
p10　人と地域を守る活動
p11　教育機関との連携
p12　活動を支えるチカラ
p13　決算報告書
p14　団体概要

特集01

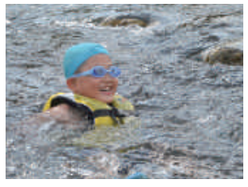
子どもリフレッシュキャンプ 2019

2019年度は、3年ぶりに夏季・冬季と年に２回のキャンプを開催することができました。夏はウォーターフェスや肝試しを楽しみ、世界でたった1枚のＴシャツづくりにもチャレンジしました。冬はお餅つきや五平餅づくりを行いました。新企画のaichikaraオリジナル「巨大トランプ」では参加者全員で神経衰弱を楽しみ、笑顔いっぱいのキャンプとなりました。



子どもリフレッシュキャンプ 2019 vol.16

開催日程：2019年12月24日(火)～29日(日)
開催場所：ふれあいのやかた かしも
（岐阜県中津川市加子母）
参加者数：19名
福島県９名・岡山県９名・愛知県1名



子どもリフレッシュキャンプ 2019 vol.15

開催日程：2019年8月10日(土)～20日(火)
開催場所：福崎バンガロー村（岐阜県中津川市加子母）
参加者数：53名
福島県25名・岡山県16名・大阪府2名・東海地域10名

参加するたびに、自分の成長を実感できる

Ko Sasaki
佐々木 豪
キャンプ参加者
中学２年生

初めてキャンプに参加したのは、小学校４年生のときでした。その頃から、両親と離れた環境でその場で初めて会う人たちとキャンプをすることに興味があり参加することに決めました。

キャンプは楽しいだけじゃなく、参加するたびに自分がグングン成長していくような気がして、毎回楽しみにしています。また、毎年新しいスタッフも参加するので、以前からのスタッフも合わせて、人との交流が多いこともこのキャンプの魅力だと思います。

僕は、中学生になった去年からスタッフの手伝いもして、スタッフの大変さや多忙な姿をみてきました。スタッフに対する感謝とともに、日々自分を育ててくれている両親に対しても感謝が生まれてきました。

このキャンプは、自分1人でも、子どもだけでも、スタッフだけでも成立しないと思います。みんながいるから成立するとても貴重な場であることを改めて感じました。

僕が5歳のときに保育所のお昼寝中に起きたあの大地震をうけて、いち早く福島の子ども達のために行動してくれたことはすごいことで、なかなか出来ることじゃないと思いました。

時が経って、あんなに小さかった僕が中学２年生になっても毎年続いているこのキャンプは、ホントにすごいと思います。これからも、日本中の子ども達を、キャンプという貴重な経験で楽しく支援していってほしいと思います。

「今は帰りたくない」と思えるほど充実したキャンプ

キャンプに参加した当初は早く帰りたいとずっと思っていましたが、キャンプが続くにつれて楽しさも増していき、帰るのが名残惜しくなりました。

高校の時に何回か大量調理の経験があったので、キャンプでも難なくできると思っていましたが、想像よりもずっと大変で心が折れそうになりました。毎日100食以上のごはんを作ることで、分量通りに計っても想像した味を出すことが難しいこと、「いただきます」の時間に間に合うよう準備することがどれだけ大変なことかが分かりました。

しかし、コックチームのキャプテンと副キャプテンがいつも明るい雰囲気にしてくれていたので乗り越えることができました。また、チームの人数が足りないときは、他のチームからスタッフや子どもが手伝いに来てくれました。コックチームは子どもと関わる時間が短かったのですが、子ども達が私の名前を覚えてくれて、話しかけてもらえたことがとても嬉しかったです。

コックチームの一員としてキャンプを過ごすことができ本当に良かったです。次第に時間が短く感じ、「今は帰りたくない」と思うほど充実した活動をすることができました。

Mao Morikawa
森川 茉桜
至学館大学健康科学部
栄養科学科
1年

キャプテン研修会

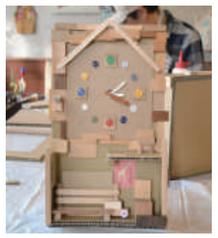
危機管理研修会

危機対応研修会（AED講習含む）

キャンプ最終研修会

キャンプ事前研修

子ども達が安心して、楽しくキャンプに参加できるようにスタッフ向けの研修を実施しました。スタッフとして活動する上での心構えや子どもと接する際に大切にすること、応急処置の方法などについて学びました。



くるくるマーケット

開催日程：2019年10月1日(火)
～31日(木)
開催場所：喫茶ぱんとまいむ
（名古屋市東区）

ものづくりをされている作家さんのご厚意で持ち寄っていただいたアクセサリーや雑貨、ポストカードなどの作品を販売し、売上はすべて子どもリフレッシュキャンプの開催資金に充てさせていただきました。
ご協力いただいた作家のみなさん、ありがとうございました。

キャンプの様子が
動画になりました！
こちらのQRコードから
ご覧ください！

特集02 スタディーツアーin宮城

9年前はまだ幼かった学生が、宮城県石巻市・女川町・気仙沼市を訪問しました。被災地に立ち当事者の方々からお話を伺い、微かな記憶の“あの日”を追体験します。このプログラムを通して、悔しさ、悲しさ、あたたかさ、強さなどを心で受け止め、いざという時に自分や周りの人を守るための判断や行動に繋がる“備え”を学びます。その“備え”を自分の生活に持ち帰ることは、「あの日失われた命との出会いを大切にする」ということでもあります。

「とにかく逃げろ」という言葉の重みを実感

旧大川小学校では、周りに建物がなくなってしまった場所に津波でボロボロになった校舎だけが建っており、足を踏み入れるのに少し緊張しました。東日本大震災や津波被害のことは、今までテレビなどから得た漠然としたイメージしかありませんでした。なぜ逃げ遅れたのか、なぜその判断をしてしまったのか、お話を聞く中でそうした問いと向き合うことの重要性を感じました。たくさんの命が失われた場に自分がいると思うと、胸が痛かったです。

その後、七十七銀行行員のご遺族の方から伺った組織管理下での行動というお話も、ここでしか聞けない貴重なお話だと思いました。旧大川小学校でのお話とも共通すると感じたのは、学校の先生の間、上司と部下、組織と組織など、災害時にも意思決定に影響を及ぼす力があり、それによって判断、行動が制約されていたこと。そうした中で亡くなられた方の気持ちを考えると、悔しいの一言では表せないと思いました。「そんな社会をあなた達が変えていかなければならないよ」と言われたときは、ビクッとしてしまいました。

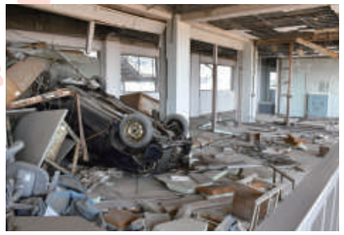
どなたも共通しておっしゃっていた「とにかく逃げろ」というたった１つの言葉の重みは、今回直接お話を伺っていなかったら分からなかったことだと思います。

Reimi Tatezawa
館澤 玲実
至学館大学健康科学部
健康スポーツ科学科
2年

6 気仙沼市 リアス・アーク美術館

震災直後から2年にわたる調査により得られた記録写真などを展示する「東日本大震災の記録と津波の災害史」を中心に鑑賞しました。被災物の展示には、1つひとつにその物にまつわる物語が添えられており、何が失われたのかを改めて考えさせられました。

7 気仙沼市 気仙沼市 東日本大震災・伝承館



気仙沼向洋高校旧校舎に震災伝承館が併設されています。津波により4階まで浸水した校舎内を歩くことで、津波の恐ろしさを目の当たりにするとともに、語り部の方のお話から、避難行動がいかに大切かを痛感させられました。

1 石巻市 旧大川小学校

避難の判断が遅れたことで多くの児童、教員が犠牲となりました。2019年10月、最高裁判決により学校・行政側の過失が認められています。ここでは、児童のご遺族の方に校庭や裏山を案内していただきながらお話を伺いました。

2 女川町 女川町駅前エリア

女川町観光協会の方にご案内いただき、町に残る震災の痕跡や復興の様子を見て回りました。町の中心地として賑わう駅前商業エリアからは、女川の未来へ向かう力を感じます。津波により横倒しとなった震災遺構・旧女川交番は、2020年2月末から公開されています。

3 女川町 鎮魂の花壇

七十七銀行女川支店では、屋上に避難したことで津波に飲み込まれ12名の行員が犠牲となりました。近くに高台があったにもかかわらず、なぜその判断ができなかったのか。当時の様子や企業の責任、組織での避難行動の難しさについて、ご遺族の方からお話を伺いました。

4 石巻市 東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館

震災伝承に携わる「3.11みらいサポート」が運営する施設です。津波により住宅が流出した南浜・門脇地区の復元模型を囲みながら、スタッフの方からお話を伺いました。また、2021年3月完成予定の「石巻南浜津波復興祈念公園」に植えられる苗の植替え作業も行いました。

5 石巻市 石巻ニューゼ

被災しながらも地域住民に情報を届け続けた「石巻日日新聞社」が運営する施設です。電気のない中で震災直後から6日間作られた「手書きの壁新聞」などが展示されています。こちらでは、当時の記者の方から、その当時新聞社の方々が「伝える」ことに対しどのように向き合ったのか、お話を伺いました。

特集03 令和元年台風19号 被災地支援

2019年度は、令和元年台風19号が日本各地を襲いました。
当団体は認定NPO法人レスキューストックヤードと情報共有を行いながら、発災直後に現地視察を実施。その後、至学館大学などと連携し、緊急支援活動として長野市へのボランティアバスを運行しました。
また、福島県伊達市でも泥かきや清掃活動を行い、のべ90名のボランティアを被災地支援活動へと繋げることができました。

実際に被災地で見たから感じられたこと

被災したリンゴ農園には、地面の至るところにリンゴが落ちていました。私たちが作業した農園も同じ状況で、枝や丸太を片付ける時にリンゴを踏まないよう気をつけていても、どうしても踏んでしまうときがありました。踏んだときのグチャっとなる感触をすごく覚えていて、今まで大切に育てられてきたリンゴだと思うと心苦しく、申し訳なさを感じました。

千曲川を視察中、ここで2か月前に想像もできない恐ろしいことが起こったのだと思うと苦しくて悲しくなりました。被災の状況を見ながら、人はいつ死ぬかわからないし、自分も明日はどうなっているのか生きているのかもわからないと考えました。

前回活動を行った辺りを通ったとき、泥かきをしたお宅と、泥で茶色がかった道が以前よりもきれいになっていることに気がつきました。それを見たときはホッとし、復興のスピードの速さに嬉しくなりましたが、同時に被災された方は引き続き大変な生活を送っているのだろうとも考えました。

今回、人のために動きたいという気持ちが行動に繋がり、この活動を通してやりがいをとても実感でき、貴重な経験になりました。今後もこのように被災地を支援する活動に参加したいと思います。

Haruhi Adachi
安達 令陽
至学館大学健康科学部
健康スポーツ科学科
1年

第1便 11月2日(土)～3日(日)

活動場所：長野市豊野町地区・長沼地区 津野公会堂
活動人数：8名
至学館大学教員1名　学生ボランティア3名
団体役職員4名

他団体と連携し、うどんと五平餅の炊き出しや支援物資の配布を行いました。また、提供場所まで自ら受け取りに来られない方のために配達を実施。配達中に出会った方のお宅の泥かきや清掃活動も行いました。

◆福島県伊達市梁川地区での支援活動

活動日程：11月30日(土)～12月1日(日)
活動場所：福島県伊達市梁川地区
活動人数：学生・社会人ボランティア10名

団体関係者を通じて紹介を受け、福島県伊達市で支援活動を行いました。浸水した蔵の中の清掃などを行い、阿武隈川沿線の被災状況を視察しました。

第2便 11月10日(日)

活動場所：長野市穂保地区
活動人数：24名
学生ボランティア20名　団体役職員4名

長野市北部ボランティアセンターや団体関係者からの紹介を受け、被災家屋の泥のかき出しやブラッシングなどの清掃活動を行いました。
また、活動後には決壊した千曲川付近や穂保地区の被災した様子を家主の方に案内していただきながら現地の視察を行いました。

第3便 11月23日(土)～24日(日)

活動場所：長野市穂保地区
活動人数：17名
至学館大学教職員2名　学生ボランティア11名
団体役職員4名

第2便で活動を行なった被災家屋で引き続き清掃活動を行いました。また、近隣のりんご農園で泥を被ったりんごの収拾や廃棄、農園内のゴミ拾いや枝拾いなども行いました。活動後には第2便と同じように千曲川付近や穂保地区の被災した様子を視察しました。

第4便 12月14日(土)

活動場所：長野市穂保地区・中村農園
活動人数：45名
至学館大学教職員2名　学生・社会人ボランティア37名
団体役職員5名　外部協力者1名

長野市穂保地区にある中村農園にて、農機具小屋の解体作業、切り落とした枝の拾集、丸太の運び出しを行いました。活動後には千曲川の氾濫地点付近や穂保地区・長沼地区の視察を行いました。

いただきまんぷく食堂 活動のあゆみ

ラジオ番組『大須好(だいすき)』出演
2019年4月7日(日) / 14日(日)

プレオープン(松原コミュニティセンター)
2019年4月13日(土) / 5月18日(土)

開催(松原コミュニティセンター)
6月 8日(土) / 55人
7月12日(土) / 48人
8月31日(土) / 42人
9月14日(土) / 42人
11月 9日(土) / 31人
12月14日(土) / 45人
2月 8日(土) / 35人

子ども食堂フォーラムでの事例報告(今池ガスホール / 名古屋市千種区)
2020年2月19日(水)

ユースチャレンジサポート

この事業は、当団体に関わる学生スタッフや社会人スタッフの挑戦の機会を応援し、スタッフのスキルアップでさらなる社会貢献に繋げることを目的としています。
2019年度は、学生スタッフ(至学館大学栄養科学科)が中心となって企画・運営している子ども食堂「いただきまんぷく食堂」の運営を、資金助成や備品の貸し出しなどでサポートしました。

活動を通じて学んだのは「相手を信頼する大切さ」

私はリーダーとして1年間この活動を続けてきました。第1回目の子ども食堂を開催できたときの嬉しさとその光景は忘れられません。

この活動を通じて学んだことの中でも「相手を信頼する大切さ」は最も大きな学びでした。

この間、楽しいことばかりではなく投げ出したいと思うことが何度かありました。初めてのリーダー、初めての事務作業、初めての企画・運営など、楽しいと思っていた活動がいつの間にか負担に変わり、さらには孤独を感じるようになりました。ついには「私はなぜこの活動をしているのか」と、当初の強い思いを見失ってしまいました。

「どうせ分かってもらえない」と思いながらも初めて不安や悩みを仲間に打ち明けました。すると、私の思いとは裏腹にみんなは共感してくれ、さらにはもっとこうしていきたいと積極的な意見を出してくれました。このとき、自分が心を閉ざし仲間を信頼しきれていなかったのだと痛感したとともに「相手を信頼する大切さ」の学びに繋がりました。

この「いただきまんぷく食堂」は、2020年4月から学生が運営する任意団体として自立した活動を行なっていきます。どうぞ、新たな展開を楽しみにしていください！

最後になりましたが、1年間私たちの活動をご支援いただいた皆様、本当にありがとうございました。

Natsumi Unno
海野 菜摘
いただきまんぷく食堂
リーダー
至学館大学健康科学部
栄養科学科 3 年

味の蔵たけとよ「こどもフェスタ」
まちの駅「味の蔵 たけとよ」(武豊町)
4月27日(土)

人と地域を守る活動

当団体を支えてくださる関係者の方々から機会をいただき、愛知県内外で開催される地域のイベントに参加しました。
イベントでは、運営のサポートやエアー遊具の出店、募金箱の設置などを通じて子どもをはじめとしたたくさんの方々と交流をしました。

3.11チャリティー手づくり市
おおぶ文化交流の杜(大府市)
7月6日(土)

第10回至大祭
至学館大学(大府市)
10月19日(土) / 20日(日)

舞台峠うまいもん祭
加子母 B&G 海洋センター
舞台峠ドーム(中津川市加子母)
11月10日(土)

はんだまちなかフェスティバル
おおまた公園など(半田市)
10月27日(日)

教育機関との連携

当団体は、学校法人至学館との業務委託契約に基づき、学生のワークショップやボランティアに関する学内外の人的交流に関するサポートなどを行ってきました。
2019年度は、現代教養科目「人間力総合演習」との連携を図り、当団体が主催する事業におけるボランティアの受け入れや、実際の取り組みに関わる活動のコーディネート、プログラムの開発を行いました。
その他、各種講義やゼミ合宿の補助などを行いました。

人間力総合演習を通じた企画および受講生の受け入れ

子どもリフレッシュキャンプ2019

① 子どもリフレッシュキャンプ 2019 vol.15
8月10日(土)～20日(火)　学生 24名

② 子どもリフレッシュキャンプ 2019 vol.16
12月24日(火)～29日(日)　学生 24名

東北スタディーツアーin宮城

9月14日(土)～15日(日)　学生 8名

台風19号による長野市災害支援活動

① ボランティアバス第１便
11月2日(土)～3日(日)　教員 1名・学生 3名

② ボランティアバス第２便
11月10日(日)　学生 20名

③ ボランティアバス第３便
11月23日(土)～24日(日)　教職員 2名・学生10名

④ ボランティアバス第４便
12月14日(土)　教職員 2名・学生 27名

地域イベントでのエアー遊具イベントサポート

① 味の蔵たけとよ「こどもフェスタ」
4月27日(土)　学生 6名

② はんだまちなかハロウィンイベント
10月27日(日)　学生 9名

講義やゼミの補助

ワークショップ

① 今井美希ゼミ
ブロックを用いたコミュニケーション実習を実施。
4月24日(水)　ゼミ学生11名
4月25日(木)　ゼミ学生15名

② 石田芳弘特任教授　講義
講義内で鑑賞した映画をもとにワークショップ型講義を実施。
5月28日(火)　受講生 98名

人間力形成Ⅵ〈災害・救援系〉

講義内で東日本大震災や当団体の活動について伝える機会をいただくとともに、災害を題材としたワークショップを展開した。
7月18日(木)　受講生 221名
内容：ゲスト講話
8月5日(月)・6日(火)・30日(金)　受講生 221名
内容：ワークショップ

ゼミ合宿のコーディネート

2月15日(土)～16日(日)
ゼミ学生11名　担当教員他関係者 5名

活動を支えるチカラ

ボランティアベンダー（社会貢献型自動販売機）

自販機での購入1本につき3円が当団体に寄付されます。

合計設置数　2台
合計　54,861円

パンダふわふわ

パンダ型エアー遊具の出店の売上をキャンプなどの事業に充てました。

実施回数　3回
合計　150,700円

会員制度

当団体の会員には、正会員・賛助会員（個人・法人）の3種類があります。

正会員 29名　賛助会員 3名

※2020年3月31日時点

キャンプへのご支援

子どもリフレッシュキャンプでは下記のご支援をいただきました。

寄付金額　4,317,206円
ボランティア数　のべ 166人

ご提供いただいたお品
米・中華麺・きゅうり・ナス・トマト・飲料水
名古屋コーチン肉団子・国産鶏もも肉・味噌 など

募金箱

東海地区の様々な企業や店舗にご協力いただき、募金箱を設置しています。

設置店舗数　52店舗
合計　386,843円

街頭募金

被災地の現状やキャンプの様子などを多くの方々に知っていただきたいとの思いから、平日の夕方や週末に名古屋市内を中心に募金活動を行いました。

実施回数　15回
合計　268,890円

くるくるコイン募金箱

硬貨を投入すると円を描きながら中心部に吸い込まれるように転がっていきます。「思わず入れたくなる」遊び心をくすぐる募金箱を導入しました。

広報

支援者さんへの報告や、より多くの方々に当団体を知っていただくことを目的に、活動の様子や被災地の現状などの様々な情報を広く発信しています。

報告書

ホームページ
www.step-aichikara.com

フェイスブック
一般社団法人aichikara

ブログ
https://ameblo.jp/i-aichikara

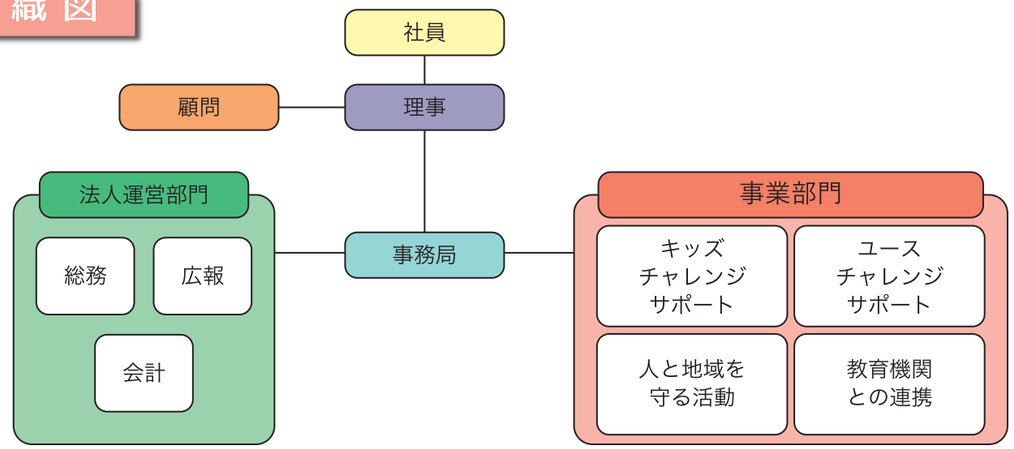
インスタグラム
aichikara.gia

決　算　報　告　書

(2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで)

科　　目	2019 年度決算額 (a)	2018 年度決算額 (b)	比較増減 (a-b)
経常収益			
1. 受取会費	**2,399,809**	**2,296,196**	**103,613**
正会員受取会費	2,291,809	2,200,196	91,613
賛助会員受取会費	108,000	96,000	12,000
2. 受取寄付金	**5,827,994**	**3,544,780**	**2,283,214**
受取寄付金	5,060,040	2,552,877	2,507,163
街頭募金	268,890	387,290	△118,400
募金箱	386,843	138,599	248,244
その他	112,221	466,014	△353,793
3. 受取助成金等	**5,840,000**	**5,250,000**	**590,000**
4. 事業収益	**4,131,218**	**2,480,835**	**1,650,383**
キッズチャレンジ事業	3,229,222	973,835	2,255,387
ユースチャレンジ事業	250,226	400,000	△149,774
人と地域を守る事業	554,700	80,600	474,100
教育機関との連携事業	97,070	245,700	△148,630
加子母ログハウス事業	0	780,700	△780,700
5. 積立金取崩収益	**277,791**	**0**	**277,791**
6. その他収益	**227,709**	**50,949**	**176,760**
経常収益計	**18,704,521**	**13,622,760**	**5,081,761**
経常費用			
1. 事業費	**8,334,985**	**5,149,593**	**3,185,392**
キッズチャレンジ事業	6,815,505	3,657,176	3,158,329
ユースチャレンジ事業	494,257	812,469	△318,212
人と地域を守る事業	918,026	172,285	745,741
教育機関との連携事業	107,197	254,165	△146,968
加子母ログハウス事業	0	253,498	△253,498
2. 管理費	**11,486,376**	**11,479,037**	**7,339**
人件費	7,307,541	7,712,803	△405,262
その他経費	4,178,835	3,766,234	412,601
経常費用計	**19,821,361**	**16,628,630**	**3,192,731**
収支差額			
法人税等	68,500	68,500	0
当期正味財産増減額	△1,185,340	△3,074,370	1,889,030
前期繰越正味財産額	11,960,380	15,034,750	△3,074,370
次期繰越正味財産額	10,775,040	11,960,380	△1,185,340

組織図



役　員

代表理事　石原 杏莉

副代表理事　御堂 大貴

専務理事　大島 巧
　　椙岡 優子
　　中村 豊

常務理事　佐藤 匠

理事　吉村 康範
　　福地 結実子
　　伊藤 亜美
　　朝日 唯
　　國居 愛恵
　　新田 桃子
　　市川 彩果

監事　若尾 僚彦

顧問　谷岡 郁子
　　中島 紀于
　　沼田 眞由み

協力機関

学校法人 至学館

株式会社 中島工務店

THE BODY ATELIER MANAMANA
カラダのアトリエ・マナマナ

住所　〒460-0011
愛知県名古屋市中区大須 2 丁目 26-28
アイランド大須 1 階

TEL/FAX　052-717-0154

MAIL　info@ai-chikara.com

HP　www.step-aichikara.com

発行日　2020年6月30日

発　行　一般社団法人 aichikara

責任者　石原 杏莉

事務局　志治 友規　大石 義貴　佐藤 匠

編　集　大石 義貴

印　刷　紙文総合販売株式会社

資料提供　国立国会図書館
この報告書は、国立国会図書館東日本大震災アーカイブプロジェクトに協力しています。